

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 8月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470900790		
法人名	社会福祉法人興仁会		
事業所名	グループホーム宮浦		
所在地	広島県三原市宮浦6丁目22-6 (電話) 0848-67-4645		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470900790-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年8月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が多くの時間を過ごすパブリックホールは、高い天井に天窗があり、明るく開放的。ソファやテーブルがあり、思い思いの場所でくつろがれたり、おしゃべりに花が咲き、日課になっている歩行訓練を行いADLの維持向上に一役買っている。
戸惑いや不安になった時には寄り添い、楽しい時は一緒に笑い、全ての職員が「あなたがいるから私は安心」と思っていただけのようなサービスの提供ができるよう、研修やミーティングを行い研鑽に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

3食グループホームの職員が手作りしており、利用者は朝・昼・晩、調理の音や匂いを感じることができ、職員の体制が充実している時は、利用者が調理の手伝いをしている。季節の行事を大切に、七夕飾りや、夏祭りでの金魚すくい、そうめん流し、敬老会、運動会、ハロウィン、クリスマス会、新年会、節分などを食堂居間で開催している。午前午後の歩行訓練、散歩を大切にしており、食堂居間には、テーブル3セット、ソファ3セット配置しているが、その周りには歩行訓練ができる十分なスペースがある。排泄の自立支援の取り組みでは何人もの利用者が、おむつからリハビリパンツに変わったり、リハビリパンツから布パンツに変わるなどの実績がある。毎月発行するカラーの「通信」、隔月で担当する職員が利用者の様子を手紙で家族に知らせる取り組みなど家族とのコミュニケーションを図る工夫をしている。

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝、全員で理念、毎年掲げる事業運営方針の唱和を行い再確認している。	理念、方針のほか、管理者と主任代理が中心となって毎年「事業運営方針」を策定し、掲示・唱和を行い周知している。今年は接遇や言葉遣いを掲げて週に3～4回開催するミーティングにて振り返りやできているかを話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染防止のため、地域とのつながりを持つ事が難しいが、町内清掃への参加や宮浦通信（毎月発行）の配布を行い地域との関りにつなげている。	町内会に準構成員として入会し、グループホームの様子が分かる「通信」を回覧している。町内清掃は再開しているが、神社のまつりや中学校の運動会、大学の学園祭、幼稚園の敬老会など、これまで参加したり来訪を受けていた行事が中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染防止のため、実施できていないが近隣行事（こども園、中学校、大学等）への積極的な参加や、年2回実施の防火避難訓練への近隣参加を呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	より良いサービスの提供ができるよう、多職種の方々の意見、助言、情報共有を行っている。	地域包括支援センター、地域住民、家族会の代表、連携している法人の管理者の参加により開催している。活動内容は映像を映して報告する工夫をしている。コロナ対応に関する意見や助言から窓越し面会の実施や事業所内の感染予防のルール作りにつながったことがある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議への参加、事故報告、介護保険更新手続き、コロナ感染対策等の情報共有、協力を得ている。	市とは、利用者の要介護認定の更新手続きや運営推進会議の議事録送付、集団指導のリモート参加などの関係がある。地域包括支援センターとは、運営推進会議を通じた連携をしている。	

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2度勉強会を行い、職員へ意識付けを行い、ミーティングで意見交換を行っている。	毎月、法人として「身体拘束適正化委員会」を開催し管理者が参加している。今年は、法人のリモートによる研修が1回、事業所での研修を2回予定している。言葉による抑制にならないよう、まずは言葉遣いから職員同士で相互指摘する取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年勉強会を行い、ミーティングを活用し意見交換を行っている。	/	/
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に施設内研修を行っている。	/	/
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時、詳細説明をし、了承されたうえで契約となっている。改定、追加になった物には書面で同意を行っている。	/	/
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、ケアプランの作成時に要望をお伺いして反映している。	ケアプランの更新時や窓越し面会時、電話をした時などに家族の意見を聴取し、ケアプランに反映している。運営推進会議の議事録や隔月での利用者ごとに担当する職員からの文書報告を送付する際にも意向を確認している。年2回開催していた家族会は感染予防のため中止している。	

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティング、ミニミーティングを行い意見交換ができる場を提供している。良い意見は取り入れモチベーションの向上につなげている。	週に3~4回開催するミーティングは、意見交換し易いよう各自が提案を持ち寄る形で運営している。カット野菜や簡便な用品への変更など職員のアイデアを活かしている。ミーティング内容は「ミーティングノート」に記録し全員が共有している。希望休は2日、可能な範囲でシフト変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	目標管理シートの活用、面談の実施を行い個々の能力の向上につなげるようにしている。有給、公休は本人の希望を叶えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各職員が年に一度必ず勉強会を開き発表の場を設けている自ら資料の作成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ感染対策のため他施設へ行けてはいないが、リモートでの勉強会を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	その方の生活歴や背景の把握、家族への聞き取り情報を職員間で共有し環境に慣れて頂けるような取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時、入所時や面会時に聴き取りや要望をお伺いし信頼関係の構築に努めている。また、こまめにご本人の様子もお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族から聴き取りをし、初期のケアプラン作成を行いサービス提供を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々の出来る事を見極め役割を持って頂き可能な限り一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	少しでも足を運んで頂けるよう必要な物を持参して頂いたり電話の際に現況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染対策のため外出支援は行えていないが自宅近隣へのドライブへ出かけたりしている。	グループホームから比較的近いところに住んでいた方が多く、自宅の付近にドライブに行っている。面会の制限はあるが、窓越し面会を行ったり、年賀状や暑中見舞いのはがきを出したり、電話の取り次ぎをし親族や馴染みの方との関係が続くよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性を考慮して配席をしたり全員で出来るような制作物の提供を行いトラブルには仲介をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	可能な限りのフォローや助言を行っている(2年以上も前に退居された方が亡くなられたとご家族が来苑された事もあった。)		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にご本人の意向の確認を行うと共にご本人の困りごと等への対策を検討、アセスメントを行いケアプランへ反映している。	利用開始時には、生活歴や趣味嗜好、職歴などを聞きケアプランに活かしている。意見の表出が難しい方には、職員がそばに寄り添って、傾聴し表情から読みとって確認している。はい・いいえで応えられるよう工夫している。食べ物や縫物など特技に関わる要望がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	お一人、お一人の認知症の勉強会を行い、生活歴や背景を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録への記載、ケース記録への記載をし、申し送りや、ミニミーティングでご本人の現状把握を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>コロナ感染対策のため担当者会議の実施はできていないが、3か月、6か月で評価、見直しを行い家族に説明、要望等を聞いている。</p>	<p>モニタリングは、3ヶ月の利用者と6ヶ月の利用者がおり、担当者が日課表をもとに記載し、全職員で評価内容を意見交換して評価している。評価に基づき、ケアプランを見直し、家族と確認をしている。</p>	<p>介護記録、日課表、申し送りノート、ミーティングノート、管理者ノートがあり、重複している内容も多く見られる。職員間で効率よく情報共有できるシステムの検討が業務の効率化のために期待される。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>下肢筋力の低下予防のため個別訓練を行い食事も食べやすく工夫する等、職員間で統一、記録、アセスメントを行っている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>直接面会が難しい中でもオンライン面会やガラス越し面会を行い、気分転換にドライブへ行ったりとその時々で柔軟に対応をしている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣にあるこども園へ散歩へ出かけ、子供たちとのふれあいやボランティアの施設訪問等を行っていたが現在はコロナ感染対策のため中止となっている。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本来は受診対応は緊急時以外ご家族へお願いしていたが、コロナ感染対策のためご家族の了承を得て協力病院へ職員が受診対応をしている。</p>	<p>協力医療機関の月に一度の往診がある。歯科、眼科、皮膚科についても総合病院であり、必要に応じて家族と連絡を取り、職員が車で通院介助している。精神科の受診は別の医院にて受診し、受診内容は家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護事業所が休止となったため協力病院と連携をとり受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の連携室、医事課、ソーシャルワーカーと情報共有を行っており、宮浦通信の配布も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の指針説明を行い同意を頂いている。またその時が来た時には協力病院と連携し、ご家族の支援を行っている。	重度化に際して、医療行為はグループホームではできないことを伝え、確認同意を得ている。医療が必要な段階になると協力病院と連携し、今後の対応について家族の相談支援を行っている。入院、介護医療院、介護施設の入所につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修、マニュアルの周知徹底を行っておりこれができないと夜勤業務には入れない様になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防火避難訓練を年2回実施している。水害、地震については計画書はあるが、実際の訓練についてはコロナ感染対策のため行えていない。	緊急連絡網や避難時の持出袋、飲料水や食料の3日分の備蓄など整備している。火災についての訓練は年2回行っている。自然災害については避難訓練は行えていない。町内会の担当の方から声掛けいただいたが、その後随分時間が経過している。高潮、洪水の危険地域である。	高潮、洪水の危険地域であり、平屋であることから、早期に業務継続の視点から計画(BCP)を策定することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念の唱和を毎日行い職員の再確認を促した、接遇面においても研修会をしている。	排泄時や入浴時に羞恥心に配慮した声掛けや外から見られない配慮として、カーテンやついたての活用を行っている。言葉かけについて尊厳を損ねないように職員相互で指摘しあっている。利用開始時には個人情報の方針について説明し、「通信」への顔写真の活用について同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	傾聴、受容、共感しながら、説明、納得して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全て合わせる事は難しいが、利用者ファーストを念頭に個別性を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に散髪の業者に来てもらい整容してもらっている。男性はひげそりを毎日して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な調理のお手伝いを可能な限り職員として頂いたり、食器洗い、献立表の記入をお願いしている。	朝・昼・晩3食手作りで、音や匂いで生活を感じたり、調理を手伝ったりしている。おやつ活動としてホットプレートで餃子やウィンナーお好み焼きなどを焼いたり、芋きんとんや稲荷ずし、恵方巻、チョコレートムースを作ったりして楽しんでいる。海鮮ちらし寿司をテイクアウトしている。	

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分摂取量が少ない方にはゼリー等工夫をしたり、食事量が少ない方には、代替食、補食を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、ご入居者に合わせた口腔ケアを行い必要時には受診をしています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>オムツは最終的に必要であれば使用していますが、個々に合わせた排泄介助を心掛けている。</p>	<p>病院や施設から転居された方で複数名、おむつからリハビリパンツへ、そして、布パンツへと移行した方がいる。排便については日課表で記録し、排尿については課題のある利用者を対象として記録している。トイレは1ユニット3箇所あり手すり等の整備をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取、ヨーグルトの提供、朝、夕の体操、毎日のホール歩行等で予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間、曜日を全て合わせるの難しいが、入浴剤の使用や、プライバシーに配慮した空間づくりを行っている。拒否のある時には中止する事もある。</p>	<p>入浴は週に3回を目途に行っている。基本的には午後に入浴しているが、拒否等がある場合は、落ち着いた時間帯に声掛けをし入浴を促している。利用間もない利用者にはベテランの職員を充てるなどの工夫をしている。個浴槽で左右に広いスペースがあり、麻痺に対応して入浴しやすく整備をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>個々の生活リズムや体調に合 わせ室温、照明の管理を行って いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>主治医、薬剤師に相談して服用 しやすい物や形状に変更し、確 実に飲んで頂けるようにマニュ アルを作成している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>家族からの情報をもとに、生き 生きと暮らして頂けるようなメ ニューを考え提供している。コ ロナ感染対策で実施はしてい ないが、ボランティアに来て頂 いたり、買い物、近隣施設との 交流を行う等気分転換の支援を 行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>本来であれば様々な外出支援を 行っているがコロナ感染対策の ため現在は近隣散歩やドライブ を可能な限り行うにとどめてい る。</p>	<p>近隣の散歩と中庭での「おやつ 活動」など、外に出る機会を意 識的に設けている。コロナ禍以 前は、平地でもあり散歩で近 所の商店に買物に行ったり、回 転ずしやケーキ、お好み焼きを 食べるに行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>個人の金銭管理が難しいため職 員管理となっている。コロナ感 染対策のため外出支援を行う事 ができないため、実施できてい ない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(樹)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの電話の取次ぎや帰宅要求がある時にはご家族の了承を得て電話をかけさせて頂いている。お手紙はその都度ご本人にお渡ししている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓からの自然光を取り入れ、個々に合わせた空調管理も一括で行っている。清潔な環境を維持するよう努めている。	毎朝、居室、トイレ、居間食堂を掃除し、次亜塩素酸にて手すり等の消毒を行っている。季節を感じる創作活動をし壁に飾っている。台所も広く利用者の手伝えるスペースがある。ソファが3セットあり、居間食堂で一人になれる空間が十分ある。玄関からバリアフリーで歩行しやすいようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	天井が高く開放感がある共有空間があり、思い思いの場所で過ごせるようにソファやテーブルを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族写真やお気に入りの物、ご自身で制作された物等を飾ったり、居室の物の配置はご家族と相談しながら行っている。	利用開始時は家族と相談し居室のレイアウトを行っている。その後の身体機能の変化でレイアウトを変更する際は家族の確認を得ている。居室前には手作りの工作物を掲げている。使い慣れたものとして、テレビ・机・椅子・ラジオ、コップなどの持ち込みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線には手すりの設置があり立位訓練を行ったりしている。また、トイレの場所がわかりやすいように貼紙をしている。		

V アウトカム項目(樹) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝、理念を唱和し、今年度の運営目標も理念に沿った物にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域運営推進会議を開催し、情報の共有、交換を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染防止対策で地域に出かける事は難しいが、「宮浦通信」を毎月発行し、情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域のコロナ感染状況や対策等の情報交換を行い普段のケアに活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域運営推進会議の議事録提出、介護保険の更新手続きや認定調査等連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関施錠は行っている。(感染対策、防犯上警察からの指導により)最低でも年2回の研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の実施、スピーチロックも含め、スタッフは自分たちの行動を内省し、業務に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	虐待防止の研修会で学習をしている。また、契約時に本人、家族に不利益にならないように同意を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書を基に入居生活全般における説明を行い了承して頂き、入所となっており、不安や疑問は丁寧な対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価のアンケート及びケアプラン作成時の聴き取りや評価時に、入居者の様子をお伝えし、意見要望を伺いながらご理解や安心して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや10分ミーティングを活用し気付きや提案等発言できる場を設け、決定事項は申し送りノートへ記載し周知を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	目標管理シート、自己評価シートで自身の能力の向上にむけたシステムがあり努力が結果へ結び付けば給料に反映している。また、公休、有給は本人の希望通りになっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修は年間の計画に沿って実施している。レベルにあった研修の参加、出張研修の場合は必ず報告研修を実施している。現在はコロナ感染防止対策のため資格取得のための研修とオンライン研修のみにとどめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ感染防止対策のため現在はできていないが、入所希望者の紹介は行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	インテーク時に本人、家族から聞いた情報を基に問題点や要望を暫定プランに取り入れ職員間で共有し安心して暮らして頂けるような関係の構築を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時、入所時に家族の想いを聴き取り、職員で情報の共有を図り、家族には本人の様子をこまめにお伝えするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	可能な限りたくさんの情報を聴き取り、利用可能な施設、特徴を説明し、紹介等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩として経験されてこられた知識を活かし暮らしの中で役立てて頂きながら支え合う関係を築いている。理念にも掲げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	細やかなコミュニケーションをとる事でご家族、ご本人双方の想いをくみ取りながら職員と家族で支え合う関係が構築できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染防止対策のため交流は難しいがガラス越しやオンライン面会を行い関係が途切れないような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや共同作業を通して互いの必要性や支え合う事を感じて頂きコミュニケーションを取りながら生活して頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後の経過を見守りながら家族の要望があれば情報提供や共有、外部機関との連携等の支援を行い関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いに寄り添い希望や意向を聴き取りその人らしい暮らしを提供できるよう本人の状況に配慮しながら取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に本人、家族より可能な限りの情報聴き取りをし、それを基にフェースシートの作成をし職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日課表、申し送りノート、3か月、6か月評価、ミニミーティング等で把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3か月、6か月評価や、その都度のアセスメントを通して現状にあったケアプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日課表、申し送り、ミニミーティングを通して見直しを行い、職員間で情報共有を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人、家族の希望にすぐできる事は可能な限り対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ感染防止のため現在は難しく、周辺散歩やドライブにとどまっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的に主治医の往診、協力病院と連携を行い必要であれば受診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は不在なため、協力病院に相談し受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の連携室、メディカルソーシャルワーカーと情報の共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の指針の説明を行い了承して頂いている。その時が来たら協力病院と連携を行い家族の支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	関係先で応急救護、AEDの使い方の研修を行っているが、現在はコロナ感染防止のため実施できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防火避難訓練の実施を行っているが、地震、水害については計画はあるが、現在はコロナ感染防止のため訓練は行えていない。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の想いや考えを大切にし、理念にも掲げている。毎年研修も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の想いを可能な限り傾聴し、自己決定ができるような工夫を行っている。(2つを提示して1つを選んで頂く等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールはあるが、可能な限り本人の意思やペースに合わせる様になっているが、コロナ対策のため希望通りに行かないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪時に本人の希望を聞き伝えている。入浴後の服も本人と一緒に選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	家事参加で食事への関りを持ち、毎月常会を開いて食べたいものを一緒に考えておやつ作りにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日課表を活用し水分管理をしている。また，本人の情報の中から嗜好を考慮，工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後行っており，必要があれば歯科受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には紙パンツやパットの使用をし，トイレ誘導の声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	日課表で排便確認しながら必要に応じて主治医と相談しながら軟下剤で排便コントロールを行っている。また，運動や水分摂取を個別に実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前に声掛けをし，体調や本人の希望に沿って入浴していただいている。(希望により別の日に変更も行っている。)		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	室内の環境を整え本人の希望に 応じて休んでいただいている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	お薬手帳や調剤明細書より症状 の変化を確認し、本人のレベル に応じた服薬を行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	季節ごとの行事やおやつ活動、 個々の生活歴や能力に応じた 創作活動やレクリエーションを 行っている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	コロナ対策のため外出支援は 行えていないが、近隣散歩や 中庭でのお茶会等を天候と相 談しながら行っている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	外出支援がコロナ対策のため 実施できていない。必要な 物品は現在職員が代行してい る。		

自己評価	外部評価	項目(華)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の取次ぎはもちろん、季節の手紙やお礼状を出している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>不快にならないよう空調管理、照明、音等に留意しており壁面を利用して季節感のある制作物を展示している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>思い思いに過ごせるよう、ソファやテーブルを共用スペースに設置しており、個室でゆっくりする事もできるようになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみのあるものを家族に依頼し、その人らしい部屋作りを工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所等掲示して本人の自立を促し、危険な物は排除してバリアフリーな空間作りを行っている。</p>		

V アウトカム項目(華) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮浦

作成日 令和4年9月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害発生時(水害・地震)の行動計画の未実施。	災害発生時の行動計画を職員全員が周知し円滑に実行できるようになる。	BCPの策定。職員間で意見を出し合う。シュミレーションの実施。実施して改善・補足を行う。	R6. 3. 31
2	10	様々な記録用紙へ記入しているため重複している内容が多く効率よく情報共有できるシステムがない。	職員の書くという業務を軽減しその時間を利用者のサービスの向上に努める。	情報共有ツールの検討。タブレットやスマホの活用の模索。ICT化のメリットを法人にプレゼンする。	R6. 3. 31
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。